

○提案内容

**(1) 実現したい都市のビジョン**

第5次大村市総合計画に掲げる大村市の将来像である「～行きたい、働きたい、住み続けたい～しあわせ実感都市 大村」の実現を目指す。

「行きたい」都市とは、本市の特色ある観光資源や、空港・高速道路、整備が進む新幹線など、高速・広域交通の要衝の地としての優位性を最大限に活かし、国内外から多くの人を訪れる都市であると考えている。

「(4)解決の方向性」の①、②、③、④が「行きたい」都市の実現に資する施策である。

また「働きたい」都市とは、誰もが仕事に生きがいを感じ、新たな目標に挑戦できるような仕事をつくり育てるとともに、企業誘致などに取り組み雇用を確保し、マーケティングなどを踏まえたブランド化などの取組を推進し、就業者の所得向上を図る都市であると考えている。

「(4)解決の方向性」の⑤、⑥、⑦が「働きたい」都市の実現に資する施策である。

最後の「住み続けたい」都市とは、出会いから結婚・妊娠・出産・子育てまで切れ目のない支援に取り組み、子どもたちの教育環境の充実を図り、居住と都市機能の適正な立地や、適正な公共交通ネットワークの構築に取り組み、地域コミュニティ機能の再生や、地域包括ケアシステムを推進し、地域住民が安全・安心で生き活きと暮らせるまちづくりに取り組む都市であると考えている。

「(4)解決の方向性」の①、②、④、⑦、⑧、⑨、⑩、⑪が「住み続けたい」都市の実現に資する施策である。

この将来像を実現するため、AIやIoTなどの新技術を活用し本市をしあわせが実感できるスマートシティへと進化させ、各種施策を加速度的に推進したい。

**(2) 新技術の導入により解決したい都市の課題**  
 ※課題については、別紙3の(ア)～(シ)の課題分野への対応を記載ください(複数ある場合は、課題ごとに対応を記載ください)

解決する課題のイメージ	課題の分類
・交通弱者や買物弱者への支援	(ア)
・長崎空港、大村IC、新幹線駅等を訪れる観光客の市内への誘導	(ア)
・ビジネス客や観光客が利用しやすい公共交通機関の整備	(ア)
・市内の交通・観光情報の伝達環境整備	(ア)(オ)
・行政の効率的・効果的な情報伝達	(シ)
・商店や行政サービスの効率化・省力化	(キ)
・地元商店の売上・認知・コミュニケーション力の向上	(シ)
・保育士の労働負担軽減による保育士の働き手の確保・待機児童の解消	(シ)
・駐車場待ちや交通渋滞の解消	(ア)
・高齢者の健康管理、各種疾病の予防・早期発見、見守り、安否確認の実施	(カ)
・医療機関受診に掛かる時間、労力、費用の軽減	(カ)
・地域の防災力の向上	(ウ)

(3) 具体的に導入したい技術(既に想定しているものがある場合)

- ・キャッシュレス
- ・ポイントシステム
- ・自動運転
- ・シェアシステム
- ・AR、VR
- ・各種センサー、カメラによるセンシング
- ・ロボット
- ・AI
- ・5G
- ・MaaS
- ・AIによるビッグデータ分析(センサー類、GPSデータ、ビーコンデータ、購買データ、コミュニケーションデータ等の分析)
- ・データプラットフォーム
- ・スマートフォンアプリ

(4) 解決の方向性(イメージでも可)

- ①長崎空港～新大村駅(仮)～大村駅～市役所間の交通結節点に自動走行車を循環させる。また、交通結節点～周辺地域間を自動走行車で結ぶ。スーパー等に注文した商品を自動走行車で自宅まで配送する。
- ②大村駅等の交通結節点にシェアモビリティを設置する。
- ③長崎空港、新大村駅、大村ICから目的地までのシームレスな移動手段(MaaS)と、AR・VR等を活用した2次・3次交通へのスムーズな乗り継ぎのサポートを提供する。また、AIによる交通・観光案内を実施する。
- ④利用者の属性にパーソナライズされた商店や市からのお知らせ、観光情報、イベント情報等を通知しアクションを促すことで、利用者の各種行動・購買・コミュニケーションデータ等からレスポンス分析を行い、今後の施策の立案・効果検証や通知方法等の改善につなげる。
- ⑤商店や行政サービスにキャッシュレス決済を導入する。
- ⑥行政や商店の利用時にポイントを付与し、行政参画の推進と商工業の活性化を図る。
- ⑦センサーやロボットを活用し、保育士の労働負担を軽減する。
- ⑧AR等を活用し駐車場や交通渋滞等の情報をドライバーにタイムリーに提供する交通情報案内システムを構築する。
- ⑨高齢者が装着したウェアラブル端末や宅内センサーから得られる情報を遠隔地の家族や医療機関と共有し、健康管理やみまもりに役立てる。
- ⑩スマートフォンやAIスピーカー、カメラ、センサー等を活用し在宅医療や在宅受診を可能にする。
- ⑪利用者の現在位置に応じた防災情報を通知するほか、市民が道路などの危険箇所の通報を簡単に行えるようにする。

上記については、市民プラットフォームとなるスマートフォンアプリから実現できるようにする。さらに、アプリから収集されるGPSデータ、ビーコンデータ、購買データ、コミュニケーションデータ等をAIにより分析し、自動走行車やバスの運行計画の最適化、都市拠点区域等の見直しや効率的な土地利用の判断など、さらなるスマートシティづくりに活用する。

(5) その他

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
企画政策部企画政策課	小林 努	0957-53-4111	kobayashi-t@city.omura.nagasaki.jp